

診療のトピックス

2023年12月 岡山赤十字病院放射線科 姫井健吾

放射線治療の進歩・リニアックを用いた高精度放射線治療

放射線治療は手術、薬物療法と並ぶ悪性腫瘍の重要な治療方法の一つです。手術と同様に、局所治療ですが、臓器の機能と形態の温存が期待できる治療であり、早期から進行期・再発病変、症状緩和まで幅広い適応があります。放射線治療単独、薬物療法併用、術前・後照射など各病気の種類、進行の程度により色々な組み合わせがあり、各診療科と相談しながら治療方針を決めております。

強度変調放射線治療(Intensity Modulated Radiation Therapy : IMRT)

色々な方向から放射線の強度を変え、病変の形状に放射線の治療範囲を合わせることで治療効果を高め、一方、病変周囲の正常臓器への放射線に強弱をつけることで副作用を軽減することが可能となる技術です。

定位放射線治療(Stereotactic Radiation Therapy : SRT)

病変部へ放射線を集中し、病変周囲への放射線を減らすことで治療期間を短くして治療を行うことができます。

肺癌、肝細胞癌、転移性肺・肝・骨腫瘍、オリゴ転移(少数転移)などを対象としています。

根治的放射線治療

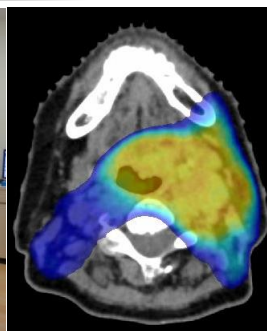
脳腫瘍、頭頸部腫瘍、肺癌、乳癌、婦人科癌、悪性リンパ腫、
消化器癌(食道癌、肝細胞癌、膵癌、直腸癌など)、
泌尿器癌(前立腺癌、膀胱癌、尿管癌など)など

緩和的放射線治療

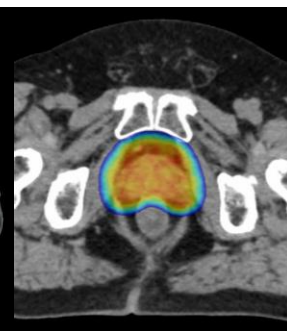
転移性骨腫瘍に伴う疼痛、転移性脳腫瘍、
局所の再発腫瘍に伴う疼痛・出血・閉塞、気道狭窄など



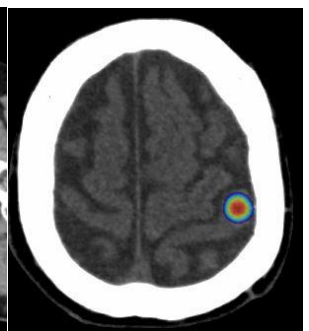
リニアック



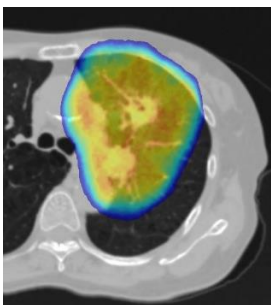
頭頸部腫瘍



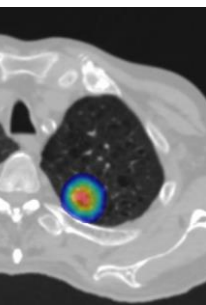
前立腺癌



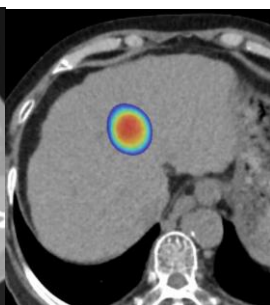
脳転移



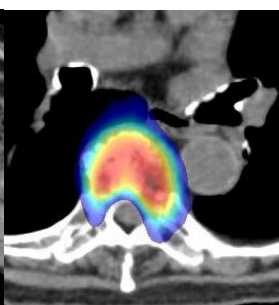
進行肺癌



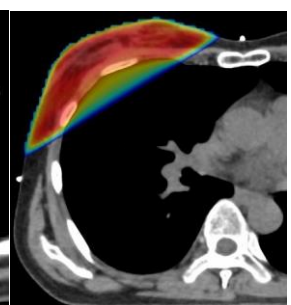
早期肺癌



肝細胞癌



脊椎転移



乳癌